

## 『あ、いたいた！』

株式会社アスプルンド 菖蒲店

織田 めぐみ

いつもお店に来てくださる年配のご夫婦がいる。以前いた店舗でお話を聞く機会があり、それ以来私を見つけると「あ、いたいた！」と笑顔で声をかけてくださるようになった。

お店に来られるたび旦那様、奥様ともたくさんお話をしてくださり、いつしか二人に会うのが私の楽しみになっていた。ただ一つ気になるのは、必ず私にオススメの商品を聞き、必ず購入されること。お客様にとって本当に必要なものなのだろうかと気になるものまで……。

他店舗への異動が決まり、もう会えなくなってしまうのかと寂しい気持ちを押さえながら、お客様に異動することを伝えた。奥様がふと笑顔で言った。

「残念ね。でも、あなたがオススメしてくれたものがあるから、寂しくないわ。キッチン道具を見る度あなたの笑顔を思い出すんだもの」

旦那様からは「孫みたいで大好きだったよ。いつも相手をしてくれてありがとうね。」と書いていただけだ。泣きそうになりながら作り笑顔で、その時は感謝の言葉しか言えなかった。

異動して1ヶ月。店頭で声出しをしていると、聞いたことのある声で「あ、いたいた！」と聞こえた気がした。笑顔で手を振っていたのはあの旦那様と奥様だった。

驚きを隠せず、自分でもわからないくらい会えたことが嬉しかった。奥様が目に涙をためていたことがわかるまでに少し時間がかかった。いつも笑顔の奥様だけれど、少し元気のない様子だった。

「あなたに会いたくて来たの。やっと会えた。笑顔が見られなくてなんだか寂しかったのよ」

嬉しいと同時に私は気付かされた。お店にある商品が好きでお店に来てくださるのと同じくらい、私を信頼して会いに来てくれているのだと。

その時を境に、私とお客様との会話に変化が出始めた。商品を買ってもらえるようにではなく、お客様の心からの笑顔が見られるように会話をするようになった。今では私の声が聞こえたからとお店に来てくれるお客様までできた。

あのご夫婦は今もお店に来てくれる。私を見ると楽しそうな笑顔で「あ、いたいた！」と声を出して……。そして、いつもそっと私に元気のおすそわけをしてくれる。